

池田大作先生の外国語教育¹について

——周恩来総理との共通点²——

松永 源二郎³

要旨

本論主要围绕池田大作先生的外语教育展开，旨在全面回顾池田先生一生致力于外语教育的整体面貌。仅从外语教育这一角度来看，池田先生的贡献是巨大的，而产生这些贡献的根基，在于实现世界广布的目标，这也是他与戸田城聖先生の师弟誓言。此外，在与汤因比博士进行对谈时，池田先生曾有过两次不愉快的经历。最终，这些痛苦的经历使他更加强烈地希望青年部能够学习外语，并培养出更多的口译人才。另一方面，周恩来总理对中国的外语教育也做出了不可估量的贡献。本文后半部分将选取其中的一部分，并介绍与池田先生的外语教育的共通之处。

キーワード 池田先生 外国語教育 語学 通訳 周総理

1 戦後の日本外国語教育史の俯瞰

波多野（2024）は「戦後日本においては、政府は一貫して英語教育に力点を置き、21世紀に入ってから、より具体的な政策提言や施策を行ってきた。ことに、2002年に文部科学省が『英語が使える日本人』の育成のための戦略構想』を発表してからは、英語は単なる外国語の一つに過ぎないとする今までの建前から一歩踏み出し、英語に特化した政策を進めてきた。」と指摘しているように、日本では英語教育を重視してきた。しかしながら、諸外国に比べると、日本の英語教育を中心とした外国語教育は遅れている。長年、東京大学理学研究科で教鞭をとった東京大学名誉教授のロバート・ゲラー氏によると、担当した博士課程入学者のうち、TOFELで550点以上を取得するものは4分の1程度である

¹外国語教育（がいこくごきょういく）とは、[外国語](#)を習得させることを目的とした[教育](#)の総称のこと
で（[外国語教育 - Wikipedia](#)）、本論では語学教育の他、通訳、翻訳の育成も含めている。

² 昨年、周総理生誕125周年を記念した国際会議で拙文「周恩来の外国語教育」を発表した。今回、池田先生の外国語教育について調べていく中で、両者の外国語教育には共通する点が多いことに気付いた。その為、本論後半でその考察を加えていく。

³ 男、香港中文大学（深圳校）で副教授。専門は主に日中対照言語学及び日本語教育。

のに対し、英語教育の点では諸外国が日本よりもはるかに進んでおり、チューリッヒにあるスイス連邦工科大学では、すべての大学院の講義が現地語のドイツ語ではなく、英語で進められ、事務スタッフや技術職員さえも流暢な英語を話すという⁴。これは中国と比べても同じで、筆者が現在勤務している香港中文大学（深圳校）は多くの学生は留学経験がないにも関わらず、中国国内でありながら殆どの授業が英語で行われており、このような大学は中国に多く存在する⁵。筆者は2006年から中国に在住し、18年間の大半を大学の中で過ごしてきたが、多くの中国人学生たちは高い英語能力を有していることを日々実感してきた⁶。一方、日本は近年、ようやく日本政府および各教育機関において英語の早期学習が実施される計画がでてきたものの、十分な対策が取られてきたとはいえない。その要因の一つは、日本国内において英語教育及び外国語教育に対して、その重要性に対して賛否の議論が先行し⁷、具体的な取り組みが遅れてきたことにある。実は、2001年からすでに小学校1年生の英語教育の義務教育化が導入されている中国において興味深い指摘がある。というのは、当初、中国が小学校の教育課程に、外国語教育の一環として英語教育を導入したのは1978年だったものの、教育現場などから批判や反発が殺到し、結局ほとんどの地域で実施には至らなかったというのだ。当時の中国の批判や反対の理由を見てみると、いま日本の教育現場にある批判や反対の声とまったく同じであるという。それは、まず、中国で起きた批判の1つが「母国語の習得の妨げになる」ことで、母語の中国語ですら十分にマスターできていない年齢で、英語教育を導入するのは「時期尚早」であるという主張であった⁸。鈴木（2020）によると、これは大ベストセラーとして知られる藤原

⁴ [ロバート・ゲラー - Wikipedia](#)

[東大生でさえ世界では通じない英語力。国際化に向けてやるべきこと | WANI BOOKS NewsCrunch \(ニュースクランチ\) \(wanibooks-newscrunch.com\)](#)

⁵ [全英語课程专业，哪家强？重点推荐这15所大学！|教学|全英文|高校_网易订阅](#)

⁶ ちなみに日本の外国語教育は韓国と比べても遅れていると大谷泰照は指摘する。「歴史の教訓と異言語教育」（2009）の中で次のように述べている。「日本は経済大国化する中で中学校の外国語の授業時間数は次第に削減されてきたが、韓国では国の経済的発展が進むにつれて逆に外国語教育は強化されてきた。……韓国の高校卒業生は、小学校3学年以降10年間の英語と、中学校1学年以降6年間の第二外国語を学ぶことができる。」等。

⁷ 泉水浩隆（2009）「日本（の大学）における第2外国語教育をめぐる現状と課題_スペイン語教育を中心に」

⁸ [日本と中国「英語を学ぶ環境」の決定的な差 今春ようやく小5から義務化されたが周回遅れ | 日本と中国「英語教育格差」 | 東洋経済オンライン](#)

正彦氏の『国家の品格』（2002）に述べられている「英語よりも国語と漢字を学べ」⁹といった「保守思想」¹⁰が、小学校などでの英語教育導入の妨げになったことと関係していると指摘する。ナショナリズムの高まりや保守的な思想が外国語教育の推進と相いれないことは近年、これまで英語教育に力を入れてきたこの中国において、「英語不要論」の言説が出始めていることも関係する興味深い現象である¹¹。このような主張が深刻であるのは、高等教育に従事する大学教員の間でも存在するからである¹²。また、第二外国語にいたっては、次のようなより厳しい見方も存在する。「時には「第二外国語は要らない」とか「役に立たない」などのいわゆる「第二外国語無用論」がほとんど公然の事実のように口にされることすらある¹³。」等、このように英語教育をはじめとする外国語教育の取り組みが日本で大きく遅れてきた要因の一つは、保守的な思想が根底にあり、その価値観と相容れないことが「役に立たない」という浅薄な損得勘定を生み、ひいては語学教育の軽視に繋がったのだと考える。しかも日本語には「語学屋」と呼ばれる語学に通じた人材を蔑視するような言葉まで存在している¹⁴。確かに、自国の中だけで一生暮らし、生きていくことだけを考慮すれば外国語は不必要なものと映るのも理解できる。しかし、今日、グローバル化が進む社会を意識し、世界で通用する人材の育成を考慮すれば、外国語教育は極めて重要なものであることに疑いはない。つまり、保守的な思想が母国語のみで十分という主張を支える一方、外国語の習得が不可欠という主張の根底には多文化共生、コスモポリタン（地球市民）を目指す教育の視座が対立軸として潜在的に存在している。池田先生は「世界市民」教育を重視し、2001年に開学したアメリカ創価大学のモットーにも「世界市民」

⁹ 藤原は次のように述べている。「そもそも小学校で英語を二、三時間勉強しても、何の足しにもなりません。きちんとした教師の下、週に十時間も勉強すれば少しは上達しますが、そんなことをしたら英語より遥かに重要な国語や算数がおろそかになります。」藤原正彦『国家の品格』

¹⁰ [日本と中国「英語を学ぶ環境」の決定的な差 今春ようやく小5から義務化されたが周回遅れ | 日本と中国「英語教育格差」 | 東洋経済オンライン](#)

¹¹ [国が強くなれば英語はいらない!? 中国「英語不要論」台頭の背景 次世代中国](#)

¹² 山中司（2019）「大学にもう英語教育はいらない—自身の「否定」と「乗り越え」が求められる英語教育者へのささやかなる警鐘—」

¹³ 山取清（2005）「第二外国語教育の現状と未来」

¹⁴ [語学屋\(ごがくや\)とは？ 意味や使い方 - コトバンク \(kotobank.jp\)](#)

因みに中国語にはこれに相当するような表現は存在しないが、《哑巴英语》(=dumb English、mute English) という読み書きだけできて、会話できない英語能力を蔑視する用語がある。

の文言が入っており¹⁵、更に池田先生は「世界の各地に学園を創立し、世界市民教育に全力を尽くしている。世界市民には、「人類意識」の養成のためにも平和教育、環境教育、人権教育が必要であり、また語学教育も不可欠である。¹⁶」と述べている。つまり、池田先生は学園生や創大生に語学学習を呼びかけている背景の一つには、「世界市民」輩出への期待と視点がある。

2 池田先生の語学重視の原点

1968 年は、池田先生が日中国交正常化という歴史的な提言を発表した、極めて重要な年としてよく知られているが、その時の会合で「諸君はしっかり語学をマスターし、いつでも世界の広宣流布の舞台におどりでていける力を、この学生時代に養っていただきたい¹⁷」と訴え、世界を意識した語学学習への期待を述べている。実はこの年、池田先生は語学人材の育成にも大きく踏み出している。まず、学生部（大学生の創価学会メンバーの組織）の中に通訳の人材組織がつくられ、高校生と大学生の集いで語学学習の重要性を訴えている。例えば、高校生に対して5つの教育指針¹⁸を提示した際、外国語学習についても触れている。しかも「まず一カ国の外国語に習熟すること」と述べ、外国語が英語のみに限定されていない。その為、池田先生と対談した趙文富博士は「冷戦対立で世界が二分されていた当時であって、単に「英語の習熟を」と呼びかけるのではなく、「一カ国の外国語」という表現を用いられたことに、池田先生の慧眼を感じます。¹⁹」と驚きを述べている。実際、冷戦という短期的な視野でみれば、重要となる外国語は英語とロシア語に限定してみることもできる。事実、パリ講和会議以降、米英の影響力が大きくなるに従い、英語が国際共通語としての地位を確立していったのに対し、中国ではこの頃はロシア語が第

¹⁵ アメリカ創価大学のモットーは「生命ルネサンスの哲学者たれ！」「平和連帯の世界市民たれ！」「地球文明のパイオニアたれ！」の三つ。

¹⁶ 「池田大作全集」（第 150 巻 2004.8）

¹⁷ 「池田大作講演集」第 1 巻 第 11 回学生部総会 1968.9.8

¹⁸ 要約すると「使命の自覚；独創性；信仰心に基づく英知；身体鍛錬；語学学習」の五項目で、具体的には（1）未来に羽ばたく使命を自覚するとき、才能の芽は、急速に伸びることができる。（2）才能は独創性をもたなければ、偉大な力として発揮されない。（3）英知なくして知識は生きない。信心なくして真実の英知はない。（4）十代に身体を鍛えあげること。（5）まず一カ国の外国語に習熟すること。と述べている。「池田大作全集」（第 71 巻 1988.8）

¹⁹ 「人間と文化の虹の架け橋」（2005）徳間書店

一外国語として重視されていた²⁰。では、なにゆえ、池田先生は早い時期から「世界」を意識しての外国語学習の重要性に言及したのであろうか。それは池田先生の恩師である戸田先生が 1952 年に提唱した「地球民族主義」の理念に遡る²¹。その年は、約二か月後に GHQ が廃止され、日本がようやく主権を回復した頃で、現在でこそグローバル化や世界というキーワードは日常よく目にするが、当時は今よりも世界がまだ遠かった時代である。1960 年という時期は、観光庁の統計によると、海外へ渡航する日本人がコロナ前の 2019 年がピークで 2008 万人いたのに対し、人口一万人あたり 12 人の 11.9 万人しかいなかった²²。戸田先生の理念を継承した池田先生は 1962 年に大学生に世界平和の展望と使命を訴え²³、自ら率先して海外を歴訪している。会長就任の 1960 年には北米、翌 61 年には香港、インド等のアジア、更に同年 10 月には欧州へ渡航している。このように世界への広宣流布の布石は日本国内の広宣流布と同時に進められており、1975 年に発足した SGI の署名簿の国籍には「世界」と記している。かつて戸田城聖先生に語学の必要性について質問をしている。「ある時、東洋広布の問題から、世界の広宣流布という大問題に突入したことがある。……「先生、そのような時代に備えて、私たちは、今からでも語学の習得を心がけねばならないと思います。²⁴」」等。ここでの質問は「水滸会」と呼ばれた精鋭が集う会合の際に行われたもので、池田先生はまだ二十代であった。つまり、この頃から「語学人材の育成」の重要性を強く意識し、生涯をかけて取り組むことになる。しかも、池田先生が語学の重要性を更に痛感することがおきる。それは「対談の際に、困ったのは、私が英語ができないということでした。これほど悔やんだことはありません。本当に苦しましました。²⁵」と回顧しているトインビー博士との対談だった。しかも、ある時、トインビー博士に、格式高い著名な紳士しか入れない特別な会員制クラブに招待され、その際、通訳も入ることができず、そこで英語が話せなかったのは池田先生だけだったという。後年、

²⁰ [新中国俄语教育六十年_国史网](#)

²¹ 戸田先生は、1952 年 2 月に青年部の第一回研究発表の会合で「（私自身の思想は）地球民族主義である」と語っている。「池田大作全集」（1990）第 75 巻

²² [訪日外国人旅行者数・出国日本人数 | 観光統計・白書 | 観光庁](#)

[日本人出国者数 | 年次統計](#)

²³ これは御義口伝講義の内容で、その冒頭、次のように述べている。「所詮、南無妙法蓮華經の大仏法が、東洋へ、世界へ流布されていくことは、時代の要求であり、人間本然の欲求であり、せきとめようとしても、決して止めることのできない奔流なのである。」「御義口伝講義<上>」（1967, 74）

²⁴ 「池田大作全集」（第 147 巻）水滸の誓い

²⁵ 聖教新聞 2007.10.6

この体験を「英語が苦手だった私は冷や汗をかく思いをした²⁶。」と赤裸々に吐露し、語学の必要性を繰り返し語っている。すなわち、池田先生は世界市民輩出に力を入れ、その為外国語の教育を重視した。更にその背景には、若き日に戸田先生と結んだ世界広布への誓いと、自らが痛感した実際の体験が存在していた。その為、一貫して語学を重視していた。

3 創価教育における語学教育とその特徴

波多野（2024）が「創価教育における外国語教育の重要性は強調してもし過ぎることはない」と述べているように、創価教育における外国語教育重視の取り組みは極めて顕著である。1987年、創価大学分校としてアメリカ創価大学大学院で開講された専門は英語教育であった。この卒業生の中には日本の創価大学で後に英語教育に従事したものもいる²⁷。日本の創価大学でも語学教育は一貫して重視され、英語以外の中国語とロシアの外国語専攻も1990年に設置されており、1999年、大学創立30周年記念事業としてワールドランゲージセンターが設立され、2009年、創価大学大学院に国際言語教育専攻（日本語教育、英語教育）が設置され、現在、創価大学では22の外国語が履修できる環境が整っている。また、このほか、シンガポールとマレーシアには創価幼稚園が創立され、英語、中国語、マレー語等、多言語習得を目指した外国語教育が実施されている。この池田先生の外国語教育には一つの大きな特徴がある。それは大言語に焦点を当てている点である。上述したように、池田先生の外国語教育の根底には戸田先生との師弟の誓いがある。その誓いとは日蓮大聖人の仏法を全世界の人々に広めていくことである。しかも理想としては、その思想を全世界の言語に翻訳し、その通訳を輩出することである²⁸。しかし、世界には約7000の言語が存在すると言われていたことと²⁹、文字のない言語も多数存在することを考慮すれば、全世界の人類言語に翻訳、通訳するのは膨大な資源とエネルギーを必要とし、不可

²⁶ 「聖教新聞」（2006.10.7）

²⁷ アメリカ創価大学院から TESOL の修了生を創価大学に毎年3名ずつで、合計8名の受け入れが決まっていたという。田中亮平（2014）「創価大学の学習支援ワールドランゲージセンターの取り組み」

²⁸ 池田先生は述べている。「日蓮大聖人は、「妙法蓮華經の五字を以て閻浮提に広宣流布せしめんか」と仰せである。世界広宣流布は、大聖人の御遺命である。……日興上人は「広宣流布の日には、この『かなまじりの文』が翻訳され、世界に伝えられるであろう」と宣言されている。「池田大作全集」第97巻（2005. 2.23）

²⁹ [【2023年最新版】世界の言語データ | 【翻訳会社】インターブックスの翻訳外注ノウハウ \(interbooks.co.jp\)](https://interbooks.co.jp/)

能に近い。近年、約 7000 の言語のうち、約 4 割の言語が消滅の危機に瀕しているという研究報告がある。それは使用範囲が広く、使用頻度が高い大言語に大きな影響を受けていることも要因の一つで、世界の人口の半分以上がわずかに 23 の大言語を使用しているといわれている³⁰。そのうち、英語、中国語、ヒンディー語、スペイン語を日常会話で使用する人口は約 35 億人に達し、全人口の約 46%を占めている。つまり、この四つの言語が世界にもつ影響は極めて大きく、池田先生は世界広宣流布実現の為に、言語の優先順位というものを若い頃から思索していた。水滸会での「世界広布の順序からすると、どの国の言葉を、まず習得すべきでしょうか。³¹」という問題提起は言語によって優先度が異なることを理解した上で発せられたものと考えられる。下の表を見ていただきたい。

表 1 海外の創価教育における外国語教育の種類と国家

国家及び創価の学校	言語の種類
アメリカ 言語圏	主に英語 スペイン語も多く使用されている ³²
アメリカ創価大学 SUA	英語；フランス語、日本語、中国語、スペイン語（当該言語国へ留学 1 年間）
アメリカ創価大学大学院	英語教育
インド 言語圏	公用語はヒンディー語 英語（憲法に規定 ³³ ）
インド創価女子大学	英語
シンガポール 言語圏	マレー語（国語）公用語（英語、中国語、マレー語、タミール語） ³⁴
シンガポール創価幼稚園	英語、中国語
マレーシア 言語圏	マレー語（国語）、中国語、タミール語、英語 ³⁵
マレーシア創価幼稚園	英語、中国語、マレー語
創価インターナショナルスクール・マレーシア	英語が中心 マレー語・中国語・日本語・韓国語・フランス語

³⁰ 【世界の言語】使用人口と使用状況 | 【翻訳会社】インターブックス の翻訳外注ノウハウ
(interbooks.co.jp)

³¹ 「池田大作全集」(第 147 巻) 水滸の誓い

³² [アメリカのスペイン語人口は世界 2 位！英語よりキテル理由 - Sayah Media](#)

³³ [インドの公用語の一覧 - Wikipedia](#)

³⁴ [シンガポール基礎データ | 外務省](#)

³⁵ [マレーシア基礎データ | 外務省](#)

香港 言語圏	広東語 英語
香港創価幼稚園 ³⁶	広東語 中国語 英語
ブラジル	ポルトガル語 ³⁷
ブラジル創価学園	英語、ポルトガル語
韓国	韓国語
韓国創価幼稚園	英語 韓国語

ポルトガル語話者はスペイン語話者³⁸と日常会話は基本的に通じると言われるほど両言語は類似していることを考慮すれば、創価教育の教育機関がある国、更にそこで使用、実施されている言語教育は4大言語に集中している。つまり、池田先生の外国語教育の根底には世界広宣流布を意識した射程が見出せるものとする。

4 池田先生の外国語学習者へのアドバイス

池田先生はこれまで歴史上の人物の体験などを通して、多くの具体的な外国語の学習方法について具体的に紹介している。例えば、創価大学で行った特別講演の中で魯迅が推奨している外国語学習法について①毎日学習すること②多読③知らない単語は調べながら一冊の本を読了すること④良い辞書を持つこと⑤良い語学教師に教わること等³⁹、詳細に述べている⁴⁰。また、最も引用した語学をマスターした人物として挙げているのがシュリ

³⁶ [香港創價幼稚園 Hong Kong Soka Kindergarten](#)

³⁷ [ブラジル基礎データ | 外務省](#)

³⁸池田先生はスペイン語の重要性について次のように述べている。「現在、スペイン語版「御書」の翻訳が進められている。……スペイン語は、欧州のスペインをはじめ、中南米の大半の国で公用語とされている言語。使用人口は約三億五千万人ともいわれ、スペイン語版御書が刊行されれば、世界広布を大きく聞きゆく壮挙となる。」（御書一六一三ページ、趣意）2005.2.23 スピーチ(2004.9～)(池田大作全集第97巻)

³⁹「創立者の語らい」（2006、99－100）

⁴⁰ここでの「良い語学教師に教わる」というのは、池田先生が「戦後は、（英語の）個人教授も受けたが、その教師は月謝をとることばかりに熱心で、ろくに教えてくれなかった。（「池田大作全集」第94巻 2002.12.5）と自らの体験を述べていることから実感できることだったと思われる。それで、創価大学の語学を担当する教員たちに「創価教育の、語学の先生方にも、くれぐれもよろしくお願いしたい。皆が一流の語学力を身につけられるように、上手に教えていただきたい。」と述べ、語学教員たちを出席者の前で紹介している。（聖教新聞 2007.10.6）

ーマンである。彼は 15 ヶ国語を完全にマスターした人物として有名で⁴¹、江戸時代、来日し、八王子にも立ち寄っている。自伝⁴²の中で紹介されている音読を中心とした幾つかの外国語学習法⁴³はとても参考になる。では何故、池田先生はそのような外国語学習法について言及、紹介しているのだろうか。これは現在の外国語教育学が未だに未整備ゆえのことと関連すると考える。外国語教育学の権威者の一人である関西大学の竹内理教授は次のように述べている。「外国語学習成功者が何か特別な学習方法を採用しているのか」というテーマに取り組み、十数年の年月を費やしてきた。その結論は、秘術などやはり存在してなかったというものである。⁴⁴これは一つには外国語教育学の研究論文が近年多く存在するものの、他の学問分野に比べ、歴史がまだ浅く、「理論」よりも根拠が劣る「仮説」が多く参考になっていることとも関係している。筆者は学生たちがより語学学習の意欲を向上させる為に、外国語教育学の仮説などを詳しく紹介していたことがあったが、学生達はあまり関心を示さなかった。というのは、例えば、第二言語習得理論の中で有名なインプット仮説というものは、言語習得はインプットこそがベースであり、アウトプットはその習得の結果である為、アウトプットの訓練はあまり必要性がないという⁴⁵。しかし、実際の言語教育では、当然ながら両者は共に重要で、併用しながら訓練を進めていくことの方が効果的である。一方で、成功者の具体的な体験談はわかりやすく、より実践しやすかったので、授業で紹介すると、学習意欲の向上もみられた。池田先生の著作には言語に関するテーマが深く論じられることがある。例えば、ハーバード大学のヌール・ヤーマン教授との対談集の中では、近代言語学の祖とされるフェルナンドソシュールなどが登場し、言語学の該博な知識による深い洞察がみられる。それらのことから、恐らく外国語教育学に関する知見も多く有していたのではと容易に想像できる。池田先生もまた語学学習の意欲向上の為に、抽象的な仮説の話題は避け、具体的な体験談を多く取り上げられたのだと考える。

5 通訳教育史の俯瞰と池田先生の通訳育成の布石

⁴¹ [ハインリヒ・シュリーマン - Wikipedia](#) マスターした言語は 18 ヶ国語にのぼるという説もある。

⁴² シュリーマン著「古代への情熱」(1991)

⁴³ 具体的には 1 大きな声での音読 2 翻訳をしない 3 毎日 1 時間の勉強 4 興味あるテーマの作文を教師に訂正してもらい、次回の授業まで暗記する等。

⁴⁴ 竹内理 (2003) 「より良い外国語学習法を求めて：外国語学習成功者の研究」松柏社 206-207

⁴⁵ [インプット仮説とは？第二言語習得に関するクラッシュの5つの仮説 \(4\) | おすすめ英会話・英語学習の比較・ランキング- English Hub](#)

通訳という職業は最も古くから存在していると言われ、中国においては周王朝に「象胥（ショウショ）」と呼ばれた通訳を担当する役人がいた。また、日本では奈良時代に「日佐（おさ）」と呼ばれる同じく通訳を担当する役人が存在していた。江戸時代には長崎の「唐通事」という通訳のプロ集団の同族家系が260年にもわたって活躍している。一方、現代の通訳は、これは1919年のパリ講和会議で誕生したとされる逐次通訳、1926年にIBMが発明した同時通訳装置に伴い、それが初めて使用された1927年のジュネーブ国連会議が同時通訳の誕生とされる。その際、通訳を担当したのが主に欧州の大学教授たちであったことから、欧州では大学が通訳育成の任を担ってきた。アジアの大学は、その欧州を見習うことで通訳人材を育成してきた。しかも日本は中国、韓国と比べ、大学での通訳教育は遅れてきた。中国は国連と共同で1978年に大学機関内に通訳人材育成のコースを設け、1994年には北京外国語大学の大学院に翻訳通訳の修士コースが設置された。韓国では1979年に韓国外語大学の大学院に翻訳通訳修士課程が設置されているおり、現在、通訳翻訳修士号（通称MTI）を輩出できる中国の大学は300校以上あり⁴⁶、そのうち50校は日本語専攻である。一方、日本でMTIを設けている大学はまだ皆無で⁴⁷、日本での通訳人材の育成はサイマルアカデミーなどの一部の民間企業がその訳を担ってきた。ただし、中国のMTIでの通訳教育に問題点が多いという研究や指摘も多く散見され、英語専攻をもつ大学が800校を超えても尚、同時通訳者が不足している指摘もある⁴⁸。外国語系大学でも本格的な通訳の育成は難しい課題といえる。その難題でもある通訳の育成に対して、池田先生はその必要性を強く感じていただけでなく、早い時期から取り組む挑戦をしている。なぜなら、世界広宣流布の達成には優秀な通訳が不可欠であるからだ。「新・人間革命」の中で山本伸一は次のように述べている。「仏法の人間主義への共感を世界に広げていくうえで、優れた通訳の育成が喫緊の課題だ。語学陣の育成が遅れた分だけ、世界広布の遅滞をもたらすことになる。一日も早く、各国語の力ある通訳を育てなければならない……⁴⁹」等。池田先生は創価学会青年部の中に次々と通訳の人材組織を作っていく。1968年に「近代羅什グループ」（創価学会男子大学生組織）、「近代語学グループ」（女子部）、「世界語学センター」が設置され、そして、1971年2月には通訳、翻訳家などからなる「国際部」が結成されている。また、これ以外にも個別に人材を見出しては、彼らに対して厳しい通訳の訓練を施している。しかも興味深いことに彼らの多くがプロの通訳出身ではなく、

⁴⁶ [2023 年中国翻译人才发展状况](#)

⁴⁷ 日本にMTIは現在無いが、城西国際大学、杏林大学、立教大学等、通訳を学べる大学は存在する。

⁴⁸ 黄里云（2007）《高端外语翻译匮乏呼唤外语人才培养模式的多样化》，《学术论坛》

⁴⁹ 「新・人間革命」第16巻

元は通訳においては素人だった。現在、SGI 公認の中国語通訳の洲崎氏はその一人で、彼の大学院生時代だった頃の様子が「新・人間革命」には記されている。「……彼が日本で、日本語と北京語を猛勉強したとはいえ、中国の一流の通訳には、どちらの言葉もたどたどしく、心もとなく感じられていたのであろう。山本会長は、どうして彼を通訳に使っているのだろう」と、疑問にも思っていたようだ。⁵⁰ここでは日本語にも精通した孫平化らが、池田先生がプロの通訳を採用しないことへの疑念が描写されている。

6 仏法用語の翻訳と通訳

万が一、重大な語訳が生ずれば、大きな影響もでてくる極めて重要な任務を担うのが通訳である。しかも、池田先生の通訳は国家首脳との会談も含まれる。当然、プロも同行させ、その現場で修業を積ませてから行うのが道理である。しかしながら、池田先生は若い人材を大胆にも直接登用し、時に失敗のリスクも覚悟の上で通訳をさせている。それはなぜだろうか、そこにはいくつかの理由が考えられる。

通常、専門分野の通訳は、事前準備が極めて重要で⁵¹、任務を受けてからの準備作業の一つとして、その専門分野を調べ、対訳の語彙リストなどを作って当日を迎える⁵²。これは一語彙に対して対応する目標言語の語彙が一つであるという前提がある。しかしながら、深淵な哲理を含有する仏法用語の場合、その基本的意味の理解はもちろんのこと、各場面等によって訳されるべき意味は多種多様な姿を取る場合が出てくる。例えば、仏法用語の「一念」の場合、創価学会公式サイトの教学用語の説明では「①一瞬に働く衆生の心のこと。②一回念ずること。⁵³」と主に二つの説明がある。しかし、英語の説明では「*ichinen* [一念] (; Chin *i-nien*) : A single moment of life, one instant of thought, or the mind or life at a single moment. Also, life-moment, thought-moment, or simply a single moment or instant. *Ichinen* has various meanings in Buddhism: (1) A moment, or an extremely short period comparable to the Sanskrit term *kshana*. …… (4) T' ien-t' ai (538-597) philosophically interprets *ichinen* in his doctrine of three thousand realms in a single moment of life. ⁵⁴」等、その意味は4項目あり、説明は

⁵⁰ 「新・人間革命」第28巻

⁵¹ [通訳案件成功の鍵 ～事前準備が8割～ | 翻訳会社川村インターナショナル](#)

⁵² [【第1回】シリコンバレー徒然通訳テクノロジーだより「用語をまとめて単語帳アプリで活用する方法」 - 日本会議通訳者協会](#)

⁵³ [一念 の内容・解説 | 教学用語検索 | 創価学会公式サイト-SOKAnet](#)

⁵⁴ [ichinen | Dictionary of Buddhism | Nichiren Buddhism Library](#)

より複雑なものとなっている。更には「一念三千」の場合、次の組み合わせの表現がよく使われる。「一念三千」の①実践/②当体/③生命/④悟達/⑤法門等。ここで「一念三千」の辞書の意味を見ると次のような説明がある。「……凡夫の一念（瞬間の生命）に仏の境界をはじめとする森羅万象が収まっていることを見る観心の修行を明かしたもの。……

「三千」とは、百界（十界互具）・十如是・三世間のすべてが一念にそなわっていることを、これらを掛け合わせた数で示したもの。このうち十界とは、10種の境界で、地獄・餓鬼・畜生・修羅・人・天・声聞・縁覚・菩薩・仏をいう。十如とは、ものごとのありさま・本質を示す10種の観点で、相・性・体・力・作・因・縁・果・報・本末究竟等をいう。三世間とは、十界の相違が表れる三つの次元で、五陰（衆生を構成する五つの要素）、衆生（個々の生命体）、国土（衆生が生まれ生きる環境）のこと。……⁵⁵」この千百字を超す説明に基づいて上述した5つの「一念三千」の意味を日本語で説明が求められても瞬時に答えるのは難しいし、況や英語などの外国語に通訳する場合、難易度が格段にあがってくる。池田先生はトインビー博士との対談を次のように回顧している。「仏法の法理に話題が入ると、どうしても、思うように、トインビー博士に伝わらない。……また、『仏』などの言葉は、一般的に使われる場合と、私たちとでは概念が異なっている。」つまり、池田先生が縦横無尽に用いる仏法用語の真意を理解し、通訳するという作業は、対訳リストなどでは到底達成できない極めて難易度の高い作業と言える⁵⁶。仏典がシルクロードの西域から中国に輸入される際は、翻訳を担ったのは通訳を司った役人たちではなく、仏典と梵漢両言語に通じた訳経僧たちであった⁵⁷。しかも、訳経僧たちの語学力は極めて高かったようだ。例えば、法華経を訳した訳経僧の一人の竺法護は西域三十六ヵ国語に通じていたとされる語学の天才だった。また西遊記のモデルにもなった玄奘は七十五部千三百三十五巻といわれる膨大な経論を翻訳している。しかしながら、この仏典翻訳という史実に対して、日蓮大聖人は厳格な態度を示されている。「月支より漢土へ経論わたす人一百七十六人なり其の中に羅什一人計りこそ教主釈尊の経文に私の言入れぬ人にては候へ⁵⁸」等。つまり、176人いた訳経僧の中で唯一、鳩摩羅什だけが私心を交えない客観的で最も正確な翻訳をおこなっているとの見解である。仏教用語の翻訳というものは極めて高い難易度が求められるのである。その為、池田先生はそのことに関して「……やはり正しい教義理

⁵⁵ [聖教新聞：用語解説](#)から「一念三千」を検索。

⁵⁶ 周斌は日本の僧侶が仏教用語を多く交えながら登壇した際、聞き取りは3割程度しかできず、多くが訳せなかったことを回顧している。<https://www.163.com/dy/article/IUM6UK460553PDJD.html>

⁵⁷ 「続・私の仏教観」（1976）

⁵⁸ 「日蓮大聖人御書全集」 p 1007

解がなければ、とんだ間違いを犯しかねない。……いわんや言語の違う翻訳においては、教義そのものまで誤ってしまうような解釈もなされかねないでしょう。⁵⁹」と指摘し、その教義自体への正しい理解の重要性について触れ、「私の立場の対話は、どうしても、哲学的、思想的なものになってしまう。従って、仏法の知識がない通訳の人では、こちらの真意を伝え切っていけない場合が出てくる。⁶⁰」とも述べている。それらを考慮すれば、当時、プロの通訳の中で仏法用語に精通した通訳がいたとは想像しがたい。ここに池田先生自ら優秀な通訳を厳しく育てあげる必要性が生じてくるのである。

7 池田先生のハイレベル通訳人材育成の挑戦

池田先生が求める通訳の難しさを痛感する出来事があった。トインビー博士との対談である。後に「通訳の問題は、対談の予期せぬ”落とし穴”となった」と述べているように、それは想像を超えての通訳の難しさを痛感したようである。なぜなら、この時、対談には三名の通訳が準備していた。そのうちの主にトインビー博士の言葉を通訳した川崎鋭治は医学博士号を取得しているだけでなく、ハーバード大学付属病院での研究生生活も経験し、その後、フランスが誇る研究機関であるコレージュ・ド・フランスの研究員をしていた最優秀の人材である。だが、実際はトインビー博士の使用する格調高い難解な英語表現を理解できなかったり、池田先生の仏法に関する説明を上手に訳せないなど、最初から行き詰った。その為、対談後、録音したテープを持ち帰り、スタッフを増やしての翻訳作業を行い、対談はすすめられた。「この時ほど、それ（＝通訳の重要性）を痛感したことはなかった」と回顧しているように、通訳の難しさは想像を超えていたのである。「新・人間革命」には次のように記されている。「山本伸一は、トインビー博士との対談以来、世界の知性との交流のためにも、また、世界広布のためにも、本格的な各国語の通訳の必要性を痛感していた。そして、自らの手で、通訳を育成する以外にないと決意していたのだ。⁶¹」等。つまり、上述した小説「新・人間革命」にでてくる「周志英」の個人訓練の理由と意図は、池田先生が求める通訳というものが、未だ世に存在しない水準と能力を兼ね備えた稀有の人材であるゆえ、その育成は極めて挑戦的な意義を含む。ちなみに筆者は中国の大学で通訳教育に約10年間従事し、2024年8月、それらの経験を整理し、発表した⁶²、その経験で実感したことは、MTIなどの通訳翻訳専修の学生達が通常の大教室でのカリキ

⁵⁹ 「続・私の仏教観」（1976）

⁶⁰ 1999.1.20 随筆 新・人間革命1（池田大作全集第129巻）懐かしき通訳の方々

⁶¹ 小説「新・人間革命」第19巻

⁶² 筆者が「通訳教育の実践を通して」というテーマで東アジア言語文化学会で行った基調講演。

ユラムだけでハイレベルの通訳人材へと成長することは極めて困難であるという点と、厳しいマンツーマン指導を実施すれば、短期間でも学生の能力は格段にあがるということだった⁶³。つまり、池田先生の求めるような通訳人材は大教室での講義形式ではなく、一対一で集中的に行う厳格な訓練でこそ可能となる。しかも、池田先生の「心」が伝えられる通訳をする為には、その人格にも長く触れ、思想を深く理解する必要がある。例えば、池田先生がゴルバチョフ大統領と初めて会見した際、開口一番、次のように話した。「きょうは、大統領と“けんか”をしました。」会見は冷戦終結の直後、しかも二人は初対面である。池田先生は後にユーモアを込めて“けんか”を使ったと語っているが⁶⁴、“けんか”という語彙は訳し方によっては場を凍らせるトゲをもった表現でもある。その時、それを通訳が伝え、大統領は満面の笑みを浮かべた⁶⁵。それは通訳が見事に池田先生の心を伝えきったからであろう。そのような意義からも「自らの手で」育成することが重要だったと考える。このようにして育成していった通訳人材は「新・人間革命」に登場するだけでもロシア語の「斎木いく子」、中国語の「周志英」、スペイン語の「吉野貴美夫」の三名がいる。彼らを選ぶ際、その時の語学力の高さはあまり重視されてなかった。例えば、斎木いく子は池田先生がソ連の要人と創価大学で会見した際に通訳をしたが、最初のあいさつぐらいしか通訳できなかった⁶⁶。吉野貴美夫は最初の通訳で6割程度しか訳せなかった。周志英は池田先生が香港の滞在時に通訳を任された当初、日本語自体にもたどたどしさがあった⁶⁷。むしろ重視されたのは、誠実な人格と池田先生の激励に何としても応えたいという、通訳としての大きな「伸びしろ」となる強い報恩感謝の精神である⁶⁸。そ

⁶³ かつて指導した学生が全国通訳大会で優勝した時のエピソードが一部紹介されている。「顶着这样的压力，李淑媚在赛前一个月就开始了她的高强度特训。为了在比赛时取得好成绩，李淑媚不得不每天面对“斯巴达”式外教的严厉训练。“外教为了让我们在比赛中取得好成绩，对我们的要求真的很严格，他完全把我们当成日本本土的学生在训练。但也很感激他，让我在短短一个月的急训中积累了那么多的知识。”：李淑媚 | 打破障碍，不惧失败

⁶⁴ 「子供の世界」アリベルト・A・リハーノフ（1998）

⁶⁵ 「聖教新聞」（2007.8.24）

⁶⁶ 小説「新・人間革命」第15巻 創価大学

⁶⁷ 小説「新・人間革命」第15巻 創価大学

⁶⁸ 吉野が池田先生に幾度も激励されている。「吉野は……感動で体が震えた。”なんと大きな先生か！先生は、こんな私を庇ってください。断じて頑張り抜くぞ！」（小説「新人間革命」第19巻「凱歌」）等、また周は九歳頃から激励を受け、後に池田先生の恩に報いる為に決意している。「（九歳の）志英の姿を見つけた伸一は、こう語りかけた。「私は、やがて大学をつくるから、大きくなったら日本にいらっしやい。今は、しっかり勉強しておくんだよ」父は、その言葉を訳して伝えた。志英はニッコリと頷いた。……一九七一年、遂に、創価大学が開学

の上で一旦通訳として見込んだ後は、厳しい訓練の場と「池田先生の通訳」という大きな目標を与え⁶⁹、その激励は生涯に及んでいる。後に、SGI 公認通訳という池田先生の通訳を担当する組織が 1993 年にアメリカで結成され、その規模は 2003 年には十四言語、総勢九十二人の陣容となっている⁷⁰。SGI 公認通訳の一人が池田先生と南米のウリベ大統領との通訳を行った際、関係者から「SGI の通訳はすばらしい。完璧である」と絶賛されている⁷¹。また、池田先生は 1500 回を超える異なる文化圏との対話を通して⁷²、全世界の 7000 人を超える識者達と対話を行ってきた⁷³。その際、外国人識者との会談に通訳が毎回参加したことを考慮すると、膨大な通訳の現場を身近に体験したはずで、それらを通して独自の通訳観が次第に形成されていたと思われる。実際、通訳に携わるメンバーに対して詳細な通訳論を語っている⁷⁴。以下、5 点に整理する。

- 1 大きい声こそ通訳の第一条件
- 2 話し手が話し終わったら二秒以内に通訳する
- 3 一気呵成によどみなく話し続ける（＝通訳し続ける）
- 4 臨機応変な対応力ー話し手より多く説明を加えた意識

した。彼は日本行きを決意する。”……山本先生の創立された大学で学び、先生のように、世界の平和のために貢献できる人間になりたい！” 清らかな生命に下ろされた誓いの種子が、結実しようとしていた。（小説「新・人間革命」第 15 巻 創価大学）」等。筆者は志英である洲崎氏とお会いした時、私心のようなものを全く感じさせなかったことが印象に強く残っている。

⁶⁹「伸一は、あえて、さまざまな場面で、彼（周）に通訳をしてもらったのである。語学は、実践の場数を踏み、体験を積み重ねてこそ、本当の実力が身につくからだ。……中国では、国家の指導者とも会見することになる。君（周）が通訳をしてくれば、安心なんだがな。いつかやってよ。……彼は、これを契機に、北京語での通訳をめざして、猛勉強を開始した。……目標が必要である。目標に向かって前進していくところに、希望がわき、力がわくからだ。」等。小説「新・人間革命」第 15 巻 創価大学

⁷⁰「池田大作全集」第 95 巻（2003.10.10）

⁷¹「池田大作全集」第 98 巻（2005.4）

⁷² 原文は「私は、全大陸の識者の方々と、のべ千五百回を超える「文明の対話」を積み重ねてまいりました。」2000.1.15 スピーチ(1999.10～)(池田大作全集第 91 巻)とあるが、ここでは文明を異なる文化圏に書き換えた。

⁷³「御書と師弟」（2009.7）

⁷⁴ これらは「新・人間革命」第 19 巻の陽光 5 と陽光 6 とに書かれた内容で、それらを大幅に要約、整理した。

5 幅広い教養とその為の読書

特に池田先生の通訳の場合、通訳ブースで行う国際会議のような同時通訳ではなく、参加者が少ない逐次通訳が主流で、しかも話し手と聞き手との間に位置して通訳をする場合が多く、聞き手との距離も近い。それは一般的に通訳がもとめられる自身の存在を消す「黒子」というよりも池田先生の「分身」といったような意味合いが強い。そのような意味からも、聞き手のみに伝わるようにする、通訳でよく使用される「ウィスパリング」という囁く程度の音量で通訳するのとは真逆の、大きい声で通訳することが第一条件という視点などは、従来の通訳訓練ではあまり指摘されてこなかったことで、大いに参考になる視点と言える。「新・人間革命」には声が大きい通訳として登場する吉野貴美夫のエピソードが興味深い。池田先生がラカス大統領と会見する際、池田先生の第一声を、二人の通訳がスペイン語、英語で同時に通訳し、両言語に堪能な大統領が、どちらの言葉で答えるかによって、会見の通訳を決めるということがあった。結局、スペイン語での通訳に決まったが、その様子が次のようにある。「……伸一の言葉が終わるのを待って、吉野貴美夫はスペイン語で、アメリカの幹部は英語で、同時に通訳した。吉野の声はひときわ大きかった。生命力みなぎる彼の声に共鳴するかのように、大統領の口から発せられたのはスペイン語であった。⁷⁵」

池田先生は、このようにして通訳の人材をも一人一人見出しては丁寧に育て上げていった。そして、「今では、世界各国語の名通訳が美事に揃った⁷⁶。」と述べているように、仏法にも精通した一流の通訳の人材群を輩出するという偉業を見事に実現させた。

8 池田先生と周総理との会見及び外国語教育

半世紀前の1974年、池田先生は周総理と会見した。会見した時間は限られていた。もし、時間と条件が許せば、外国語教育のテーマについても取り上げられていたのではないだろうか。なぜなら、両者は共に外国語教育を極めて重視していたからだ。しかも池田先生は、多くの識者との対話の中で、幾度も外国語教育について取り上げている⁷⁷。例えば、中国の教育分野を担っていた顧明遠教授との対談で、「異なる文化圏の人々が交流するためには、何より共通する言語をもたねばなりません。そこで、教育交流に不可欠な外国語

⁷⁵ 小説「新・人間革命」第19巻「凱歌」

⁷⁶ 「池田大作全集」第129巻 懐かしき通訳の方々 1999.1.20 随筆 新・人間革命1

⁷⁷ 例えば、パナマ大学の総長との会談では「ペタンクール総長と山本伸一の語らひは、語学教育の問題や大学のモットーなどにも及んだ。」（「新・人間革命」第19巻 「凱歌」）とあり、また、北京の新華小学校の関係者との懇談では次のよう）等ある。

の習得について話を進めたいと思います。……貴国の外国語教育は、しばしば成功例として日本でも報道されます。どのように外国語教育に取り組まれてきたのか。ぜひ、具体例を交えて教えていただければと思います。⁷⁸」と質問をしている。日本に比べ、中国がより積極的に英語教育を進めてきた言語政策は、元を辿れば、周総理の指示によるところが大きい。新中国建国後、ロシア語が第一外国語の地位を占めてきたが⁷⁹、この流れを一変させたのが周総理である。1944 年、周総理は北京外国語大学の前身であった延安にあった軍委露文学校（ロシア語学校⁸⁰）に英語教育の増設させる指示を出し、名称も延安外国語学校へと変更させている。また、1956 年には「外国語教育の拡充と重要な外国語書籍の翻訳」の方針を打ち出しており⁸¹、同年には上海ロシア文専科（上海外国語大学の前身）、ハルビン外国語専科学校（黒竜江大学の前身）、1958 年に西北ロシア文専科学校（西安外国語大学の前身）、瀋陽ロシア文専科学校（遼寧大学の前身）、1959 年に西南ロシア文専科学校（四川外国語大学の前身）等に次々と英語をはじめとした他の外国語が開設されている。一方、池田先生が外国語教育に本格的に乗り出されたのは 1960 年代からで、中国は 1960 年代に入ると、周総理の指示を受けて作成された綱領をもとに本格的な外国語教育改革が更に進められた。このように中国の命運をかけて周総理が外国語教育政策に取り組んでいた時期は池田先生が開始されたのよりも若干早い。しかも両者の会見が行われた 1974 年は、池田先生にとっては本格的な外国語教育への取り組みが緒に就いたばかりだったゆえ、タイミングからすると、周総理には質問したいことで溢れていたのではないだろうか。次章で周総理の外国語教育を詳細に見ていく。

9 周総理の外国語教育

現在、鄭曉楓によると、中国では 1 億人近い小中学生が外国語を学習しているという⁸²。また、中国に現在ある外国語学校は 2008 年ですでに 797 校にのぼり⁸³、大学においては約 1000 校に英語専攻があり、385 校に日本語専攻がある⁸⁴。外国語大学は全国に 183 校あ

⁷⁸ 池田大作・顧明遠（2012）「平和の懸け橋―人間教育を語る」p264―p 265

⁷⁹ 劉捷は新中国建国後、70 年の外国語教育政策の歴史を 7 つの時期にわけ、1949 年から 1956 年までを第一期「ロシアを師をとった教育」に位置づけている。参照：曾天山 王定华《改革开放的先声-中国外语教育实践探索》第二版，2019.8，北京，外语教学与研究出版社，1 項から 66 項。

⁸⁰ 日本語の名称は『[北京外国語大学 - Wikipedia](#)』を参照した。

⁸¹ 参照：李传松 许宝发《中国近现代外语教育史》2006. 9. 上海：上海外语教育出版社。208 項。

⁸² 参照：鄭曉楓《中国学校外语教育的发展》2006, 4, 《重庆工学院学报》. 170 页。

⁸³ 参照：牛楠森 韩 喆《外国语学校要培养什么样的人》，《上海教育科研》2020. 11.

⁸⁴ 参照：俞里明主编《教育语言学研究在中国》（上），上海：华东师范大学出版社。2018. 1. 168 項。

り⁸⁵、新中国建国後から長い期間、ロシア語一辺倒ですすんでいた頃と比較すると、外国語教育は大発展を遂げた。その源流はひとえに周総理の功績に他ならない⁸⁶。新中国建国後、中国は国防、経済のみならず、外国語教育にも更に力を入れていく。その際、陣頭指揮をとったのも周総理である。特に1964年、周総理の指示で作成された《外国語教育七か年計画綱要（筆者訳）》が大きい影響を与えていく。胡文仲（2018）は、もし綱要がなければ今のような中国における外国語教育の発展はなかったと述べている⁸⁷。というのは、綱要が批准された1964年には、新たに筆者もかつて勤務した北京第二外国語学院がわずか5ヶ月間で開設⁸⁸したのを皮切りに、秦皇島外国語専科学校（天津外国語大学の前身）、大連日語専科学校（大連外国語大学の前身）、1965年に広州外国語学院（広東外貿大学の前身）⁸⁹等、13校の外国語系の高等教育機関が次々と誕生した。また、綱要では英語を第一外国語に明確に位置付けており、これにより英語教育の大拡充がすすんでいく。周総理の外国語教育政策において特に特筆すべきは通訳に対する深い理解と通訳教育への高い意識である。周総理の周囲には多くの優秀な通訳がいた。英語であれば、浦寿昌、冀朝铸、唐聞生等、日本語の通訳であれば、王效賢、周斌、林麗楹、賈蕙萱等。なかでも冀朝铸はかつてニューヨークタイムズ誌で「不可欠な人材」と紹介されたほどである。しかし、周総理はそのような現状には全く満足していなかったようで、さらなる大規模な通訳育成が喫緊の課題であるととらえていた。それは周総理自身が総理兼外交部長ということで多くの外国人と折衝していく中で、通訳の力不足と人数の不足を感じていたからだ。駐ポーランド中国大使に対して次のような電報を送っている。「目下、最大ノ課題ハ通訳ガ全ク機能セズ。急ギ ワルシャワマデ 別ノ通訳ヲ 送レ。（筆者訳）⁹⁰」また、ある時の電報には北京ロシア語学校の約50名の優秀な学生は通訳として全員派遣され、残りの学生は学習歴が1年にも満たないので、話にならない。他に方法はないか検討しておくようにとの指示をしている⁹¹。特に1963年から1964年のアジア・アフリカの14か国を歴訪するな

⁸⁵ 参照：我国普通本科院校外语专业布局现状的系统分析-中国社会科学网（cssn.cn） 尚、日本の高等教育における外国語学校は戦前の旧制外国語学校で官公立の4校、私立の9校のみで全部で13校しかない。

⁸⁶ 参照：李传松 许宝发《中国近现代外语教育史》2006.9.上海外语教育出版社。99項から100項。

⁸⁷ 参照：俞里明主编《教育语言学研究在中国》（上），上海：华东师范大学出版社。2018.1. 169項

⁸⁸ 参照：李传松 许宝发《中国近现代外语教育史》2006.9.上海：上海外语教育出版社。234項から235項。

⁸⁹ 参照：曾天山 王定华《改革开放的先声-中国外语教育实践探索》第二版，2019.8，北京，外语教学与研究出版社，16項。

⁹⁰ 周恩来《对彭明治电报的批语（一九五〇年七月二十三日）》，《建国以来周恩来文稿（一九五〇年七月——一九五〇年十二月）第三册》，中央文献出版社，2008年，2月，第84页。

⁹¹ 周恩来《关于俄文毕业生分配事给高岗的电报（一九五〇年七月三十一日）》，同上，第113页。

かで通訳人材の必要性を痛感したことを後に語っている⁹²。後に中国の外国語教育に大きな影響を与える《外国語教育七か年計画綱要》を打ち出したのもこの時である。しかも、周総理は通訳の難しさを熟知していた。以前、仏教学者の趙朴初を紹介する際に用いた「居士」の語彙を通訳が知らなかったため、その意味が出家者ではなく「在家信徒」であることを説明したことがある⁹³。ある時は、周総理は専属の通訳者たちにも背景知識に関する即興の試験のような試みも頻繁に行っている⁹⁴。特に背景知識に関しては、日本語の通訳チームを招集し、日本の国政選挙の状況についての勉強会を一緒に開くなどして、通訳に必要な背景知識の研鑽もさせている⁹⁵。つまり、周総理は通訳の難しさと重要性を深く理解していただけでなく、彼自身が質の高い通訳を育成しようと努力していた。それと関連して周総理の外国語教育に関する有名な談話に「基礎の徹底」と「龍を育てる」の二つがある。前者は京劇にある一つ一つの技術を文法や語彙になぞられ、基礎の徹底を強調するもので、周総理のある通訳メンバーには毎日3時間の「聞く、話す、読む、書く、訳す」の「基礎の徹底」を絶やしてはいけなと語っている⁹⁶。また「龍を育てる」というのは、将来的には「龍」というハイレベルな外国語人材には小さい頃（10歳程度）から外国語学習を始めて、大学までの一貫した学習の必要性を説いたものである⁹⁷。周総理が総理兼外交部長として多くの外国人と接する中で、通訳の重要性に深く認識し、ハイレベルな通訳の不足を痛感し、その為、周総理の外国語教育はその中心に「ハイレベルな通訳人材」の育成を意識していた⁹⁸。その為、1964年に創立した北京第二外国語学院は教員に周総理の元通訳も配置されるだけでなく、その教育の重点には読み書きよりも会話優先という通訳人材を目指した方針がとられ、今日の学風となっている⁹⁹。

10 池田先生と周総理の外国語教育の共通点

⁹² 参照：周恩来译员冀朝铸：红墙翻译的传奇背影 - 中国新闻周刊网 (inewsweek.cn)

⁹³ <https://www.163.com/dy/article/IUM6UK460553PDJD.html>

⁹⁴ 参照：施燕华《周恩来指导外事翻译工作》周恩来指导外事翻译工作 (baidu.com)

⁹⁵ 参照：周恩来逝世40周年 | 周斌：我如何成为周总理的翻译 私家历史 澎湃新闻-The Paper

⁹⁶ 参照：施燕华《周恩来指导外事翻译工作》周恩来指导外事翻译工作 (baidu.com)

⁹⁷ 参照：李传松 许宝发《中国近现代外语教育史》2006.9. 上海：上海外语教育出版社。246 項。

⁹⁸ 李传松 は《中国近现代外语教育史》(2006) の中で“1956 年前后，我国对外活动日趋频繁，外语人才特别是高水平的外语人才深感不足。”と述べている。246 項。

⁹⁹ 北京第二外国語学院では外国語教育の伝統として「聞く、話す（听说领先）」を重視する気風がある。現在は当学院の章程にその記載がある。参照：北京第二外国語学院章程 (bisu.edu.cn)

両者の外国語教育をみていくと、共通点が多く存在していた。池田先生は仏法を基調として、世界平和を目指して、文明間の対話を推進していった。周総理は中国を、世界をリードする大国へと押し上げていく為に、総理兼外交部長として外交の舞台で諸外国と交流を重ねる中で、中国国家の発展と共に世界平和を志向している¹⁰⁰。そこでまず重視したのが語学人材の育成であり、特に通訳人材の輩出には力を入れた。両者とも自身の苦労した経験を通してその難しさを熟知し、しかも自ら手塩に掛けて育成しようと試みている。その際、仏法の指導者である池田先生だけでなく、周総理も通訳の際、仏法用語を例えに引き、通訳の難しさに言及していた。また、両者とも学校における語学教育に力を入れ、多くの語学に通じた人材を輩出するだけでなく、幼少からの語学能力の育成も重視し、池田先生はマレーシア及びシンガポールなどの幼稚園で、周総理は龍を育てるという方針のもと、その教育環境を整備していった。そして、何よりも両者は一人一人を陰で支え、激励をするという労作業を人知れずに行っている。池田先生についてはすでに繰り返し紹介したのでここでは周総理のエピソードについて紹介する。東北地域の外国語教育を任されていた王季愚によると、1949年の建国直前という周総理にとって多忙な中、周総理は深夜にも関わらず直接会って話を詳しく聞いている。それは外国語学校での学生たちの寄宿舎における食事状況、グラウンド設備の有無、球技用具、更には経費の内容等多岐にわたり、面会は実に5時間にわたったと回顧している¹⁰¹。そして、将来は池田先生の通訳になるという使命感で急速に成長していった三人の通訳たちと同じように、また、周総理の通訳を目指す決意した周斌は大学時代、全ての科目で満点を取得するという驚異的な結果を残し、後に夢を実現させている¹⁰²。すなわち、将来両者の通訳を担いたいという動機と目標が、ハイレベルな通訳を生み出す最大の原動力になった。まさに「使命を自覚するとき、才能の芽は、急速に伸びる」のである¹⁰³。これらを大まかに整理すると、両者には以下の共通点が見られる。

1 世界平和の大局観に基づいた、幼少から大学までの語学教育の展開

¹⁰⁰ 周総理は世界平和の語彙を建国前にすでに使用しているだけでなく、アジア・アフリカ会議で提唱した平和五原則の中でも使用している。「周恩来選集（上）」「周恩来選集（下）」

¹⁰¹ 参照：李传松 许宝发《中国近现代外语教育史》2006.9.上海：上海外语教育出版社。115項から116項。また、賈蕙萱もかつて周総理が通訳達に気を配って食事をする時間を与えてくれたことに感動したエピソードが残っている。<https://www.pku.org.cn/people/rwft/1314825.htm>

¹⁰² <https://www.163.com/dy/article/IUM6UK460553PDJD.html>

¹⁰³ 1968年の第一回高等部総会でのスピーチ、「池田大作講演集」第1巻

- 2 個人を大切に作る人間愛と激励
- 3 学校教育における外国語教育の推進
- 4 通訳の苦い経験と言語の深い洞察
- 5 通訳人材の重視と個人訓練
- 6 両者の通訳をしたいという大志が生んだ一流の通訳陣

池田先生は周総理との会見後、再び周総理に逢うことはなかったが、周総理の遺志と精神を継ぐ鄧穎超夫人とは交流を重ねた。北京で開かれた答礼宴の際、池田先生の若い通訳に対して、中日友好協会の孫平化をはじめ、中国側の通訳たちは疑問を抱いていたが、鄧女史だけは違っていた。すぐに池田先生の思いに共鳴するかのようにその意図に気付いたのだ。それだけでなく、通訳の母語が広東語であることに気付いた鄧女史は広東語で話し、彼の緊張を少しでも和らげ、激励するシーンが「新・人間革命」に描かれている。「鄧穎超は、周志英が香港の出身であると聞くと、広東語で話し始めた。……母国語でない北京語と日本語を駆使して通訳に奮闘してきた周志英にとって、広東語を使えることで、どれほど気持ちが軽くなったか。生き生きとした表情で通訳を続けた。……鄧穎超は、山本伸一に言った。「山本先生は、一生懸命に若い人を育てようとしているんですね。それが、いちばん大事なことです。どんなに大変でも、今、苗を植えて、育てていかなければ、未来に果実は実りません。十年、二十年とたてば、青年は大成していきます。それなくして中日友好の大道は開けません。楽しみですね。¹⁰⁴」

以上、池田先生の外国語教育について俯瞰し、最後に周総理の外国語教育との共通点に言及した。両者は国籍も、立場も、母語も大きく異なる。だが、地球を結び合う外国語教育の面でみていくと、両者の魂の旋律が響き合うように美しい共鳴がみられた。

会見の最後に「ぜひ桜の咲く頃に日本に来てください¹⁰⁵」と語った池田先生。「願望はありますが……」と応じた周総理。その両者の思いには青年達の交流への強い期待も込められていたに違いない。以来半世紀。現在、中国で日本語専攻のある大学は英語に次いで最も多く、一方、創価大学が交流する大学で最も多い国が中国である。両者の推し進めた外国語教育の橋を渡って、今、両国の青年たちは満開の桜を笑顔で迎えている。

¹⁰⁴ 「新・人間革命」第28巻

¹⁰⁵ ここは周総理が池田先生一行を見送る際、懐かしそうに「私は五十年前、桜の花の咲くころに日本から帰国しました」と述べたのに対して池田先生が述べた内容。堀口真吾「周恩来・池田大作の会談内容に関する調査」[20240418_115220.pdf](https://www.horikuchi.com/20240418_115220.pdf) からダウンロード